

Japan Evangelical Theological Society

## 日本福音主義神学会

## J·E·T·S·NEWS Vol.18

発行所／〒651 神戸市中央区中島通2-3-5 神戸ルーテル神学校内



## 巻頭言

「草は枯れ、花はしぼんでも…」

西部々会理事長 橋本昭夫

世紀の変わり目、人は過ぎ来し方をふり返り、そしてまた前方を占うよう促されてきました。時の区切りの時に、そのような思いになるのは、人は深く歴史的存在であり、またそれがどれほど淡いものであってもその希望に生きる存在であることを思わされます。

そんな中で、第二〇世紀はどのように特徴づけられ評価されるのでしょうか。また第二一世紀はどのような展望を提示しているのでしょうか。かつては、洋は東西に別れ、それぞれの歴史を営んできましたが、すでに一五世紀終葉に始まった西洋の世界制覇の動きは第一九世紀に完成を見、現在は西洋的思想および価値観のヘゲモニーの流れの中にあります。第一次世界大戦終結前後に『西洋の没落』(シュペングラ)が論じられ、近代から現代にかけての西洋の主導性は自明ではなくなりましてがそれでもなお実質その事情は変わっていません。そして第二〇世紀の二つの世界大戦、それに付随して起こった人類の未曾有の悲劇、第二次世界大戦後の冷戦構造と核

の脅威のもとでの不安、さらには旧ソ連邦の崩壊後の東欧の混乱と内乱、一面から見ればこの世紀は、その長足の技術的進歩とその広汎な成果にもかかわらず苦悩と迷走の世紀であったと言えます。私たちの国の近代は、西洋の

「青春」ともいべき時代に、本格的な幕開けを迎えました。西洋的刺激と伝統的価値を「和魂洋才」という原理によって折衷して来ましたが、そしてアジアでの最初の経済先進国として、安定した繁栄をここしばらく享受してきました。しかし、それにもかかわらず西洋の、いやもはや西洋・東洋を言うことができなくなった「地球村」の、ひとつの大きな潮流の中にあることを今や認識せずにはおれません。世紀末の日本、ここでは奇跡的成長経済の神話は崩壊し、高度技術の信頼性の神話は崩壊し、道徳的安定社会の神話は崩壊し、地球環境の有限性の自覚から存在の安全神話も崩壊しました。先行きの漠然たる不安が私たちの同胞の意識の奥深くを蝕んでいます。ところで、このことは人間にと

って新しい状況でしょうか。洋の東西、時の古今を越えて人間は「末世」を経験してきました。その意味では、今日の世紀末の不安先行の見通しのなさも、人間の存在の根柢に巢食う実存的定数ともいべき性質のものでありましよう。自らの手で存在の安定をはかろうとする人間の営みの不可避の帰結であろうと思われまます。

そのような中で、福音の慰めと希望を語るべく召された私たちはもう一度、人間の種々の安全神話という「自分の水ため」ではなく、「生ける水の源」(エレミヤ二・十三)にこそ人間の救いの希望があるということを「ねんごろに」(ホセア二・十四)語っていく重大な使命を課せられています。草は枯れるべくして枯れ、花はしぼむべくしてしぼむ、しかし人は本来、枯れしぼむものによって生きるのではなく、「とこしえに立つ」(イザヤ四〇・八)神のゆるしとかえりみの言葉によって生きるということ、今のこの時こそ語っていかねばなりません。なぜならこの「永遠に立つ」言葉をお語りくださる方が、平安を与え、将来を与え、希望を与え(エレミヤ二九・十一)てくださる方だからです。日本の福音主義神学会の使命も、今のこのときますます重大になると言わねばなりません。



# 一九九五年度 全国理事会報告

日時 一九九五年五月二日(月)

一三：〇〇～一六：五五

場所 名古屋市中・東海神学塾

出席者 東部 佐布正義

藤原導夫 木内伸嘉

中部

水上 勲 末松隆太郎

西部

橋本昭夫 鷹取裕成

瀧浦 滋

## 一、開 会

水上 勲 勲理事の祈りののち、

佐布正義全国理事長がヨハネの手紙第一・五：一八一二〇から

奨励し、本理事会を開会した。

二、前回全国理事会報告の承認

橋本昭夫全国書記が朗読し、

これを承認した。

三、席上書記の選任

橋本昭夫全国書記は西部部会の

理事長の立場のため、瀧浦滋

理事を席上書記にあてるとことと

した。

四、第七回全国研究会報告の承認

藤原導夫理事が別紙のごとく

朗読し、これを承認した。

一九九四年一月二八～三〇

日にYMCA東山荘で行われ、

テーマは「戦後昭和」史と日

本の教会」、出席者は八〇名で、好評であった。

他の行事との重複に配慮することが話し合われた。

五、各部会報告の承認

a. 西部部会報告

橋本昭夫理事長が別紙にそつて朗読し、これを承認した。その

要旨：

会員数一三五名。阪神大震災のため、予定されていた四月七日の春の研究会議(テーマ「今、第三の波を考える」、講師 有賀喜一氏・内田和彦氏ほか)は一月二七日(於：大阪キリスト教短期大学)に延期された。また、総会は中止され、臨時理事会報告を全会員に連絡して了承を願うこととなった。

真鍋 孝理事長が理事長を退任され、理事会は新たに以下のごとく構成された。

理事長 橋本昭夫

書記 瀧浦 滋

会計 鷹取裕成

学会誌 石黒則年

理事 市川康則 小川国光

勝原忠明 工藤弘雄

津村春英 牧田吉和

真鍋 孝

また、鷹取裕成理事が西部部会会計として報告した。西部部会の赤字が解消され、被災会員への会費免除が決定されたとのことである。

佐布正義全国理事長より、被災会員・教会にたいし、心から痛みを共にしたい旨の発言があった。

b. 中部部会報告

水上 勲理事長が別紙にそつて報告し、これを承認した。その

要旨：

会員数三六名。理事長水上 勲、書記安村仁志、会計末松隆太郎、学会誌松浦 剛、理事黒川雄三、小野静雄。昨五月一六日総会と公開講演会(「美濃ミッション事件とその教訓」石黒次夫氏)、一月七日研究発表会(「現代における礼拝のありかたについて」後藤喜良氏発表)がおこなわれた。今年度は、五月一日に総会と内田和彦氏の公開講演会が行われ、一月六日には井上二郎氏を発表者とす

る研究会が開かれる。

c. 東部部会報告

藤原導夫会計が別紙にそつて報告し、これを承認した。その

要旨：

会員数二一九名。昨五月三〇日に研究会議(「日本における力の伝道」コトディネーター倉沢正則氏、講演 尾形 守氏・内田和彦氏)が行われた。部門別活動を奨励するために予算をつけている。今年度は、五月二九日に総会と異端研究をテーマにした研究会(講師 中沢啓介氏、ウィリアム・ウッド氏)が開かれる。会計は満たされ、三〇〇〇円×二〇〇人の全国分担金も負担し得た。

六、学会誌に関する報告の承認

a. 木内伸嘉理事が以下のごとく報告し、これを承認した。その

要旨：

二五号の印刷費が一四〇万円かかり、しかも印刷の質が落ちた経緯が報告された。今井印刷(大阪)がコンピュータ入力

で安くしようとしてうまくいかずこうなったそうである。

「信仰と科学」というテーマゆえか、論文が難渋し、結局、多井氏の論文と、稲垣氏の他誌からの修正転載論文となった。今後、論文のでやすさもテーマを考える上で考えねばならない。

# 西部部会報告

一、西部部会理事会を次のように開催した。

一九九四年七月二五日神戸ルーテル神学校、一九九四年二月二九日有賀喜一理事宅、一九九五年四月一七日神戸ルーテル神学校、一九九五年七月二四日神戸ルーテル神学校、一九九五年九月四日神戸改革派神学校。

二、会員数一三六名。入会：北島実氏、坂井純人氏（準会員）藤井正也氏。

退会：白石勝美氏、宮崎利夫氏、松田一男氏。転入：南野浩則氏（中部より）

三、全国研究会議開催のため、一九九四年秋の研究会議は行わなかった。

四、阪神大震災のため、予定されていた一九九五年四月一七日の春の研究会議（テーマ「今、第三の波を考える」、講師 有賀喜一氏・内田和彦氏ほか）は一月二七日（於：大阪キリスト教短期大学）に延期された。なお、当日の午前に部会発表がある。コーディネーターは工藤・鷹取・滝浦各氏である。

五、また、同日予定されていた総会は中止され、そのかわりに同日行われた臨時理事会の報告を全会員に連絡して了承を願うこととなり、実行された。

六、四月一七日の臨時理事会において真鍋 孝理事長が理事長を退任された。

理事会は、会員の郵送による選挙に基づき、新たに以下のごとく構成された。

- 理事長 橋本昭夫
- 書記 瀧浦 滋
- 会計 鷹取裕成
- 理事 石黒則年
- 市川康則 小川国光
- 勝原忠明 工藤弘雄
- 津村春英 牧田吉和
- 真鍋 孝

七、西部部会会計の赤字は解消した。被災会員の一年間会費免除を決めた。

九四年度決算総額八四七、七六四円、九五年年度予算総額八八五、四六一円。

学会誌二五号以降、部会理事が五部つつ領布努力をする。会費滞納者について、退会希望の場合一万円を精算、とどまる場合は支払いを求める。

八、会員名簿の統一フォーマット作成を全国理事会に提案することになった。

九、九州・山中猛士氏、四国・鈴木英昭氏を総会に招待することとした。

一〇、第八回全国研究会議が、一九九六年一月二五～二七日（月々水）西部部会担当で行われるが、西部部会として以下の骨子を決定した。

開催地：神戸市

（候補「舞子ピラ」）

テーマ案：人間の宗教性

準備委員会を一九九六年一月に西部部会主催で開催すること。

## 学会誌編集報告

とき 一九九五年三月三日（金）

一二：三〇～一六：〇〇

名古屋にて

編集委員 木内伸嘉、松浦 剛、石黒則年、鍋谷堯爾

一、第二五号出版について 一九九四年内の出版ができた。主論文の執筆辞退者が多かった。印刷方法が変更されたため、一部印刷に不揃いが出たようである。

二、第二六号編集について 特集テーマ「昭和のキリスト教史」（仮題）とし、特に昭和期の歴史に焦点を当てる。（主論文執筆者）橋本昭夫氏には講演の文体でお願いしたが、小野静雄氏にお願いしたが、辞退された。

山口陽一氏に入会手続きとともに、お願いする。

中村敏氏（柏崎聖書学院院长）には「宣教師の働き」に焦点を

当てる。三浦正照氏（早稲田大卒、元朝日新聞記者、東京基督神学校卒）は「懸賞論文」のかたちで寄稿希望である。（書評執筆者）稲垣久和氏「知と信の構造」を市川康則氏（神戸改革派神学校教授）にお願いする。

「韓国教会の基礎を作った牧師たちとその説教」を中部会員に依頼する。（担当 松浦）

（その他）福音派の諸教派、諸教団から出版されている記念誌『〇〇年史』の類の紹介欄を設けることとし、各教団の本部事務局あてに募集要領を送る。

松浦剛氏は「堀内文一の神学」を研究ノートとして寄稿が可能である。全体の頁数を見て考慮する。

以上の論文締切は八月末とする。

三、今後の編集計画について 第二七号の特集テーマは「キリスト教教育」あるいは「戦争と平和」とすることを各部会理事会へ打診する。（全国理事会で「戦争」と決定）

第二八号以降に聖書学の特集を組み入れ、取り上げる書巻を定めて原稿募集することなどを考える。

報告者 石黒則年

## 福音主義神学会（全国会計）

1994年度決算報告ならびに1995年度予算（担当 鷹取）

項 目	収 入		
	1994年度予算	1994年度決算	1995年度予算
東 部 負 担 金	650,000	600,000	600,000
中 部 負 担 金 (前)	120,000	120,000	120,000
中 部 負 担 金 (今)	120,000	0	120,000
西 部 負 担 金	450,000	450,000	450,000
学 会 誌 売 上 (全 国)	210,000	270,000	210,000
広 告 収 入	340,000	249,000	380,000
献 金 入	0	0	0
雑 収 入	0	0	0
小 計	1,890,000	1,689,000	1,880,000
前 期 繰 越 金	-163,322	-163,322	-374,335
合 計	1,726,678	1,525,678	1,505,665

項 目	支 出		
	1994年度予算	1994年度決算	1995年度予算
学 会 誌 印 刷 代 費	1,200,000	1,442,000	1,050,000
学 会 誌 編 集 費	220,000	220,000	270,000
理 事 会 費	90,000	79,650	109,052
事 務 通 信 費	10,000	3,155	10,000
研 究 助 成 金	100,000	100,000	50,000
ニ ュ ー ス 印 刷 代 費	70,000	55,208	70,000
全 国 名 簿 印 刷 代 費	30,000	0	100,000
予 備 費	6,678	0	9,935
小 計	1,726,678	1,900,013	1,668,987
次 期 繰 越 金	0	-374,335	-163,322
合 計	1,726,678	1,525,678	1,505,665

### 出版基金会計 1994年度決算報告

収 入		支 出	
全 国 か ら	0		
前 期 繰 越	808,421	次 期 繰 越	808,421
合 計	808,421	合 計	808,421

#### 阪神大震災に思う

阪神大震災、オウム真理教事件、ブルのつげの何兆田という損失ゆえの銀行破綻事件：今までの観念を根底からくつがえす出来事がつづいた一九九五年でした。なかでも西部部の会員の奉仕する教会や神学校が集中している阪神地区を襲った阪神大震災は、恐るべき破壊力で私達の社会の脆さを示しました。無傷の家と全壊の家が隣り合っているギャップ。そのギャップが積み重なり、沈黙を強要して、無数の人々の苦悩とうめきを押し殺させています。しかし、社会の底に確実に「おり」のような絶望と虚無感が漂っています。この大震災の意味は、決して安易に語り得ません。神の深いみこころははかれません。被災した人々への同情も、安易に語り得ません。人々の深い悲しみに、同情しうる方は主のみです。ただ、わたしたちは知っています。私たちに委ねられていることばこそ、この絶望と虚無感に對して、語り得るものであることを……。神学することは、そのみ言葉を的確にとらえ、ふさわしく適用するための知的な営みなのです。ですから、神学の中で折りつつ神学し、神学しつつ言葉を捕らえ、乏しいながらもわれわれの全知全霊をそいで、主権者にして救い主なる主と望みと虚無感に對して、語るものとなることこそ、私たちが聖書の福音の中に神学するものとして召命に、お応えすることにはほかなりません。

# 各地区部会報告

## 東部部会報告

- 一、理事会報告 於OCC
  - 一九九四年一〇月二日
  - 第七回全国研究会議の最終打ち合わせ。
  - 佐々木望氏（バプテスタ連合取手教会）・三森春生氏（インマヌエル王子教会）・宮崎実彦氏（インマヌエル横浜教会）を正会員として迎えた。
  - 一九九四年一月三〇日、全国研究会議にて臨時理事会を開き、以下の諸氏を正会員として迎えた。
  - 竹本邦昭氏（福音教会連合西岡福音教会）・高木寛氏（福音伝道教団大間々教会）・稲垣博史氏（福音教会連合朝顔教会）
  - 小林基人氏（単立藤野福音キリスト教会）・森谷正志氏（仙台バプテスタ神学校）・東頭戊氏（日本聖書福音教団苦小牧教会）
  - 細川勝利氏（福音教会連合浜田山教会）
- 一九九五年三月一日
  - 春期研究会・総会の準備報告
  - 間寛直之氏（同盟・西船橋福音教会）を正会員として迎える。
  - 大山武俊氏の退会届け受理。（聖契神学校を退職され、岡山に帰郷）

- 竹内茂夫氏が西部へ転部。
- 一九九五年五月二九日
  - 総会後、臨時理事会を開き、以下の諸氏を正会員として迎えた。
  - 小林高德氏（東京基督神学校）
  - 響木義留鳩氏（日本バプテスタ教会連合宣教団）
  - 萩生田明氏（カンバーランド長老東小金井教会）
  - 山口陽一氏（日本基督教団吾妻教会）
- 二、研究会
  - 九四年春期研究会（五月二九日）
    - 異端研究—もの見の塔の本質と実体—中沢啓介氏、ウイリアム・ウッド氏（出席者五七名）
    - 九五年一月一三日には、「戦争」をテーマに秋期研究会を予定している。
  - 部門別研究会
    - ①聖書学（九五年一月二三日）
    - ②歴史神学（九五年三月一六日）
    - ③実践神学
  - 「戦後五〇年を迎える日本のキリスト者の反省と課題」と題した声明文を他団体との協賛で出した。
- 三、第二五回総会
  - 九五年五月二九日 於OCC
  - 二年任期であるので、本年、理事の選出は行わないが、現理事は以下の通りである。
  - 役員理事
    - 理事長・佐布正義、副理事長・大滝信也、会計・藤原導夫、書記・藤本満。

## 中部部会報告

- 一、理事会
  - 一九九四年五月一六日、二月七日
  - 一九九五年一月二七日、五月二五日
  - 第一四回総会
    - 一九九五年五月一五日（月）
    - 於 同盟福音金山キリスト教会 八名出席
    - （報告事項）
    - 全国理事会、九四年度行事報告、九四年度会計報告、会員異動、学会誌
    - （審議事項）
    - 九五年度事業計画、九五年度予算（いずれも原案通り承認）
    - 理事改選、その他
    - 一九九五年度理事
      - 水上 勲（理事長）、黒川雄三、安村仁志（書記）、末松隆太郎（会計）
      - 小野静雄、隈上正敏（学会誌）
- 二、部門別研究会
  - 聖書学 沼慎二
  - 歴史神学 津村俊夫・内田和彦
  - 組織神学 横山武
  - 実践神学 伊藤淑美
  - 無任所理事 金本悟・金沢正則
  - 葛田公義・下川友也
- 三、公開講演会・研究会
  - 春期公開講演会
    - 一九九四年五月一六日（月）
    - 午後二時より 同盟福音金山キリスト教会 一六名出席
    - 講師 石黒次夫師（美濃ミッシオン主管、富田浜聖書教会牧師）
    - 主題 「美濃ミッシオン事件とその教訓」
    - 秋期研究会
      - 一九九四年一月七日（月）
      - 同盟福音金山キリスト教会 二二名出席
      - 後藤喜良氏「現代における礼拝のあり方について」
      - 九五年度春期公開講演会
        - 一九九五年五月一五日（月）
        - 午後一時より 同盟福音金山キリスト教会 三六名出席
        - 講師 内田和彦師（聖書宣教会教師会議長）
        - 主題 「聖書が教える『霊の戦い』」
  - 四、会員異動
    - 入会 南野浩則氏、竿代信和氏、神 明宏氏
    - 退会 瀬藤美幸氏
    - 転出 桜井閑郎氏（東部へ）、南野浩則氏（西部へ）
    - 現在会員数（一九九五年度総会現在）三十七名（内 賛助会員一名）
    - 文責 安村仁志（書記）

また若い人を育てる見地から、神戸改革派神学校と東京キリスト神学校の卒業論文からも入れた。

なお西部部会理事会は、文献表には出版年と出版元が必要と指摘した。

b. JETSについて藤原専夫理事より報告があり、承認された。編集は今回、藤本 満全国書記が行った。

七、一九九四年度全国会計決算の報告の承認

a. 鷹取裕成全国会計から別紙のごとく報告があった。その要旨：三七四、三三五円の赤字である。しかし広告料の未収分と本日入金の中中部会負担金が入金するので、実質赤字は昨年度末とほぼ同じの一六四、〇〇〇円程度となる。

諸経費は削減に努めたが、今回の赤字の主因は、学会誌印刷代が大幅に上昇したことである。b. この報告について討議がなされ、

(一) 今回の印刷代の値引き交渉をさらに学会誌委員に求める提案。

(二) 学会誌の印刷のシステムを抜本的に改革する提案。

以上二点に問題が集約された。議長はこの決算の審議をいったん棚上げし、(二)について学会誌

の新システムについての提案を取り上げた。

c. その後、(一)について価格の再交渉は今回は諦めることを決定した後、決算報告の全体を承認した。

八、学会誌の新システムについての提案の討議決定

藤本 満全国書記よりの提案を討議し次のように決定した。

(一) 原稿はすべてフロッピーで提出し、版下は当会で作る。

(二) 藤本 満全国書記が版下のプロセスの手配を担当する。

(三) 以上のシステムを二六号で試みることを認め、後に再評価する。

(四) 編集委員会が予算を守って使う責任を持つことを確認する。

予算を踏まえて交渉し、請求についての判断を会計に知らせる事。

印刷方法、印刷所の選択、アルバイト使用等予算内なら可能である。

九、各部会の事業計画の承認

報告にあったとおりを、承認した。

一〇、一九九五年度JETS発行

これを西部部会で担当し、橋本昭夫理事長(全国書記)を瀧浦 滋書記が補佐して、発行することとした。

一一、全国会員名簿の発行

a. 東部部会より、藤本 満全国書記を窓口として、名簿の一括管理を行い印刷は外注する旨の提案があった。

b. 討議の結果、以下のように決定した。

(一) 名簿管理は各部会で行う。

(入退会・会費管理・発送は部会の責任)

(二) 名簿印刷は全国で外注。藤本 満全国書記に一〇〇、〇〇〇円の予算で依頼する。

(三) 各部会の書記は、東部部会のフォームにあわせ、学歴・所属役職・専門分野については届け出を尊重しつつ三行に統一して、九月末をメドに藤本 満全国書記に提出する。なお、電話番号にはFAXやNIFTYを加えることができる。

一二、全国会計予算の決定

鷹取裕成全国会計の修正提案がなされ、別紙のごとく決定した。

一三、第八回全国研究会議開催の決定

a. 一九九六年一月二五〜二七日に開催することを決定した。

b. 担当は西部部会とし、会場を依頼する。

c. 各部会より準備のための代表委員を選出する。

d. テーマに関して討議がなされ

たが、カルトと異端の時代を背景に、キリスト教宣教の独自性と視野について、真のイマゴ・デイの回復との関係で、いろいろ語られた。この話し合いをもとに西部部会と準備委員会で煮詰めることとなった。

一四、学会誌二七号のテーマの決定

a. テーマを「戦争」とする。戦後五〇年をジャーナリスティックに取り扱うのではなく、各教派の立場をも視野に入れつつ、聖書から学べるもの、戦争責任をも見つめるものとする。

b. 二六号の執筆者が報告された。一五、次回全国理事会は、一九九六年六月三日、東海神学塾で開催する。

全国書記は事前にはがきで出席者に連絡徹底することとなった。

席上書記・理事 瀧浦 滋

以上